

教育、研究、サービスの卓越性を追求し、「自ら考え行動する技術者」の育成に力を入れる金沢工業大学。同学では、自己開発センターの主導で2008年にマイクロソフト認定資格を導入し、初年から約400人を超す多くの合格者を出しました。自己開発センター所長の堀岡雅清教授に、導入の経緯や指導体制などについてうかがいました。

卒業生のメッセージをきっかけに導入

——企業のニーズや主任教授の意見も後押し

金沢工業大学(以下、K.I.T.)は、獲得した知識を知恵(応用力)に転換できる人材、すなわち「考え行動する技術者」の育成を教育目標に掲げ、“学生自らが興味を持ち、計画的に学習し、考えて行動できる教育”を全学的に実践することにより、「教育付加価値 日本一」の大学を目指しています。

こうしたK.I.T.の姿勢は、ここ数年、外部からも高く評価されていて、朝日新聞社発行の『大学ランキング』において、全国の学長からの評価「教育分野」で、4年連続1位を獲得しているのもその一例です。

また、K.I.T.には、学生が自由にモノづくりを楽しめる場の「夢考房」や、マルチメディア考房、数理工教育センター、基礎英語教育センターなど、学生一人ひとりの自己実現をサポートするためのさまざまな学生支援機関が設けられています。学生の資格取得を支援する自己開発センターもその一つで、資格試験に関する最新情報を学内テレビやポータルサイト、掲示板などを通じて提供するほか、資格取得のための講座の開講や各種試験の取り扱い窓口としての業務を行っています。また、制度そのものが複雑で理解しにくい資格に関しては、専門のスタッフが個別相談に応じるなどといったサポート体制も採られています。

現在、自己開発センターが窓口となって取り扱っている資格試験は40以上。そのうち約20については、学内で試験を受けられる教室や設備などの環境が整えられ、さらには、15以上の対策講座も開講されています。

マイクロソフト認定資格も、2008年から学内での受験が可能となり、併せて対策講座もスタートしました。その経緯を、自己開発センター所長の堀岡雅清教授は次のように話します。「K.I.T.では、本学卒業生から在学生宛にメッセージを寄せてもらうのですが、2007年度の卒業生からのメッセージのなかに、『社会に出て会社に入ると、どんな仕事をするにしても、

Excel[®]、Word、そして PowerPoint[®]が不可欠。これらの資格は、在学中に取得したほうが良い』という提言がありました。また、厚生労働省が行った企業アンケート^{*}によると、情報技術分野における「就職する際に有利になると思われる資格」という項目のなかで、企業から選ばれた資格の1位が Microsoft[®] Office Specialistの Excel、そして、2位が Wordであることを知りました。

これらの情報を契機に、当センターでは2007年5月頃からマイクロソフト認定資格を導入するための検討をはじめていきました。それと、検討過程のなかでは情報系や電気系の学科の教授からも、『授業で学んでいる内容を、より体系的に利用するためにも、Excelの表計算やデータ処理などは工科系の本学学生には特に有用』との意見が寄せられたこともあって、この試験の導入を決めました」

*出典：『企業が若年者に対して求める能力要件に関する調査研究事業報告書』(2004年5月) 厚生労働省が行った三菱総合研究所への委託調査結果より

学んだ知識・スキルを客観的に証明

——第三者に実力を伝えるための手法として

K.I.T.の情報教育には伝統があります。開学4年後の1969年には情報処理センターが開設され、その翌年には日本で初めて情報処理工学科が設置されました。これらは現在、情報工学科など情報系4学科からなる情報学部になっています。こうした流れのなか、全学的な情報教育にも力点が置かれており、1995年からは全学生が入学時よりノート型パソコンを携帯して通常の授業で使っています。そして、その利用法を学ぶ科目として、「コンピュータ基礎演習」「コンピュータ演習」(5単位)が、全学1年生の必修科目として開講されています。しかし、学生が就職活動を行う際には、学んだことを知識として持っているだけでなく、資格として証明できることが重要であると、堀岡教授は主張します。

「2007年度の、4年生の職業指導の講義の一部を担当したときに、資格に対する思いを学生に

アドバイザー制度で合格率アップ

——受験生と合格者の双方にメリット

K.I.T.では、資格対策講座の指導体制において、非常にユニークなシステムを取り入れています。それは、資格を取得した学生がアドバイザーとなり、授業中あるいは授業後の問題演習に参加し、受講生の疑問に答え、互いに議論するなかで実力の向上を計るというものです。アドバイザー参加型の講座は、2007年度からはじまっていますが、マイクロソフト認定資格については2008年11月から、この新講座が導入されました。

「講座終了後5回にわたって、模擬問題の演習会を実施しましたが、その演習日程の計画・運営・指導はアドバイザーが行いました。スキル習得に関しては、講義担当の先生の存在も重要ですが、学生同士もまたいいですよ。実際に受験経験のある学生から、勉強の仕方から学習ポイントまで、受講生も気軽に聞けますから」（堀岡教授）

アドバイザーを務める学生も、取得した資格が、早速活かせるので張り切って取り組んでいると言います。

「学生が、本来もつ能力を最大限に引き出し、将来の夢や希望を実現する手段としての資格取得をサポートしていくのが自己開発センターの役割です。本センター初代所長の佐久間亘先生が掲げた、“資格は意欲と実力の証明である”という考えに沿い、これからも資格への挑戦者と合格者をさらに増やしていきたいと思っています」（堀岡教授）

資格取得者を増やすという点においても、新たに導入されたマイクロソフト認定資格は大きなインパクトを与えました。この合格が自信につながり、よりレベルの高い資格にチャレンジする学生が出てくる、あるいは合格した仲間から刺激を受け、自らもマイクロソフト認定資格に挑戦する——。K.I.T.にとって、このような効果が、今後ますます高まることが期待されます。



メインキャンパスは、野々市町に立地する「扇が丘キャンパス」。写真は同キャンパス内にある、12階建ての理工系専門図書館。

書いてもらったのですが、そのなかに、『志望企業への面接の際に、面接官から“取得した資格は何もないんですね”と問われ、子供の頃からパソコンに触れてきたことや使えることを繰り返し伝えたが、資格がないということで落とされた。自分ができることを相手に納得してもらうためには、客観的に証明できるものが必要なんだということを身にしみて感じた』という内容があって、これに類似する意見はほかにもありました。実際に、この学生のケースが、資格がないことが採用されなかった理由かどうかは不明ですが、やはり、学んだことを“資格化”しておくことは大事だと考えています」

初回から申込みが殺到

——先生方との連携が成功のカギ

“役立つ資格だから全学生に受けさせたい”という堀岡教授の思いから、前述したように、2008年3月から学内受験が開始されました。初回は、Microsoft Office Specialist (Excel) の講座と試験が実施され、123人が受験し、117人が合格しました。その際、講座には定員80人を超える申込みがあり、やむなく断りを入れた学生も出てしまうほどの盛況だったとのこと。第1回目にして、このように多くの受講者・受験者が集まったのはなぜでしょう。その一因として、マイクロソフト認定資格に対する学生の注目度の高さのほかに、何よりも自己開発センターによる、きめ細かい告知活動が功を奏したようです。

「初回だったので、通常のポータルサイトや掲示板での告知だけでなく、チラシの配布も行いました。チラシには“資格取得が重要だ”と謳う卒業生からのメッセージなども掲載し、それをコンピュータ関連の専門の先生を中心に配布してもらいました。やはり学生には、関連する授業の先生に勧められる一言が強く響くようです」（堀岡教授）

その後、同年の7月に2回目の講座と試験を実施。このときの講座では、Microsoft Office SpecialistのExcel以外に、Microsoft Certified Application Specialist (MCAS) の Word と Excel が加わり、試験についても Microsoft Office Specialist のスペシャリストレベルと併せて、エキスパートレベルも受験できるようになりました。その結果、講座の受講者は210人、試験の申込みは計321人に増加し、うち191人の学生が合格。さらに、同年11月に3回目の講座と試験を実施した結果、2008年は、総勢400人あまりの学生が合格したとのこと。

金沢工業大学 <http://www.kanazawa-it.ac.jp/>

所在地 石川県石川郡野々市町扇が丘7-1
学生数 6903人(2008年5月1日時点)

「人間形成・技術革新・産学協同」を建学の綱領として1969年の開学。現在は、工学部(機械工学科、ロボティクス学科、航空システム工学科、電気電子工学科、情報通信工学科)、情報学部(メディア情報学科、心理情報学科、情報経営学科、情報工学科)、環境・建築学部(環境土木工学科、建築学科、環境都市デザイン学科、バイオ・科学部(応用バイオ学科、応用化学科)の4学部14学科で構成されている。大学院、金沢工業高等専門学校などを併設。



取材ご協力
金沢工業大学
自己開発センター
所長 堀岡 雅清さん